

育成モノづくり人材

Vol. 22

栃木県立宇都宮工業高校

次代の産業界を担う技術者の育成に力を注ぐ栃木県立宇都宮工業高校は、機械システム

系や電気情報システム系など4系に全7科目11コースを設ける。生徒は2年時に専門知識を深める専門類型か、一般教育の配分が多い進科、土木科は環境土木



池守校長

【DATA】▷校長=池守滋氏▷所在地=栃木県宇都宮市▷学科構成=機械システム、電気情報システム、建築デザイン、環境建設システムの4系全7科と定時制1科▷生徒総数=計1089人▷主要設備=5軸マシニングセンター、3次元CAD、電波暗室、起震装置、レーザー加工機など▷主な進路=本田技術研究所、東京電力、富士重工業、清水建設、宇都宮大学、群馬大学、茨城大学、新潟大学など

日の丸技術者、世界駆ける

学類型を選択する。池科に受け継がれている。初年度は校長は「海外への赴任守滋校長は「就職・進出。専門的職業人の育「技術立国日本を担う」などで毎年100人程度の比率などは、景気が目的の文部科学省グローバルエンジニア度が英語での卒業証明動向に左右されやすの「スーパー・プロフの育成」として、海外書を求めてくる」と話しい」という。2016 エッショナル・ハイスで活躍するエンジニアす。

年度は3年生320人 クール(SPH)にの育成を強化。授業は16年2月には、起業のうち進学類型を選んも指定された。15年度英語に加え、中国語や家精神育成の一環で宇だのは83人だった。から3年間、大学や企ベトナム語なども採り都宮市が発注した6台1923年の創立当業などと連携強化を図入れていく考え。池守の木製ベンチを生徒が

製作し、JR雀宮駅にど実際の現場さながら設置。納期など打ち合の課外授業を展開し、調整をするなが狙いだっ」と語

る。16年10月の「第54回技能五輪全国大会」には配管分野で3年生2人の出場を目指す。「創立以来、築き上げた教育の歴史が物語っている」(池守校長)ように、卒業生の全国大会出場は3年連続。今後は在学生の出場者を増やすため、早期の育成に取り組む。池守校長は産業界の発展のために、「モノづくりの世界で日の丸を背負って誇りを感じ、モチベーションを高めてほしい」と生徒の活躍に期待する。(栃木・前田健斗) (金曜日に掲載)



5軸マシニングセンターで実習する生徒